

## 採用データ

### ■ 初任給

基本給158,000円～  
280,000円

### ■ 福利厚生

賞与年2回(前年度実績)、通勤手当、職務手当、精勤手当、健康保険、厚生年金保険、雇用保険、介護保険、労災保険、育児休業、介護休業、看護休暇

### ■ 休日休暇

年間休日93日(会社カレンダーによる)、有給休暇

### ■ 採用担当者連絡先

TEL.0225-53-2854  
(総務部 佐藤)

[kakou02@takamasa.net](mailto:kakou02@takamasa.net)

### ■ 募集職種

#### 製造職

#### 営業職

#### 事務職

#### 店舗スタッフ

#### 管理職候補

- インターンシップ受け入れ／あり
- 大学生アルバイト受け入れ／あり

## 高政の ここに注目!

- ・社員の声と成長を大切にする社風
- ・マーケットインの商品開発
- ・自社の成長と地域の活性化を目指す

### 会社情報

- 設立 1973年12月
- 代表 高橋 正樹
- 資本金 5,000万円
- 従業員数 210人

(男95人／女115人)

〒986-2231  
牡鹿郡女川町浦宿浜字浦宿81-36  
TEL／0225-53-2854  
FAX／0225-54-3891

採用ページ  
(自社HP)



### TOP MESSAGE

会社の魅力や求める人材など皆さんへのメッセージ

お互いが理解しあえる環境に

社員全員が「相互理解」の思想を持てるように

代表取締役社長 高橋 正樹

近年どの領域でも「ポリティカルコレクト」が叫ばれています。私はこれを「男女平等の問題」という視点だけでなく、性的マイノリティや障がい者も含めた「すべての人」が平等にチャンスを得られる環境づくりであると考えています。当社では入社時に性別を問いません。個人の属性にどらわれず、その人の持つ可能性を存分に発揮できる環境を用意することが私の役割。そしてこれら相互理解の思想を社員全員に浸透させ、社としてのスタンダードにしたいと考えています。

水産加工品製造・販売

株式会社 高政

たかまさ



本社工場では、自分たちで作成したマニュアルの下、徹底した安全・衛生管理が行われている。

## 社員一人ひとりの声を大事に、働きやすさと革新的な経営を目指す

震災後は復興の旗印となり地域を牽引したことで知られる、女川の蒲鉾メーカー「高政」。本社再建時には商品購入・工場見学、蒲鉾手焼き体験ができる「万石の里」を併設オープンし、女川町の活性化を後押ししてきた。高橋正樹社長は、企業の成長は「人」にあるとし、人材育成に最も力を注いでいると語る。「いまや『高政』といえば、あの女川の、と言われるほど、町のイメージが最も強く、社員一人ひとりが、女川を背負って立つ、という自覚の下、色濃い。営業職や接客担当だけではなく、社員一人ひとりが、女川んと学んでもらっています」。

取り入れる、という姿勢においても出色だ。例えば「製造工場のマニュアルを現場スタッフが作る」ということもそのひとつ。いわゆる、「ヒヤリハット」が、どの部分で起きやすいかを徹底的に洗い出し、自分たちで「負」を潰していくことで、マニュアルに血を通わせるのだという。

社員一人ひとりの声に耳を傾け、新しいアプローチや従来にない取り組みも「よい」と思えば積極的に取り入れる。そこから得られた知見を、地域によりよい形で還元するという姿勢で、今後もより一層、飛躍していくであろう企業だ。

「女川を背負う」という意識を持つて仕事に臨む

商品開発においてもその視点が冴える。「蒲鉾」の中高年向けの贈答品」という印象は、そのまま開発者の属性を映したものではないか、との考え方から開発チームを20代から40代の男女という幅広い属性の社員で構成。アプローチ手法も、従来の「この商品をいかに売るか」ではなく「このターゲット層に向けて売る商品を作る」というマーケットイン的スタイルへシフトした。こうして誕生したのが、「カキをおいしく食べるための蒲鉾」という、主従を逆転させた商品「御膳蒲鉾かき」。その品質と着眼点が評価され、農水省主催の「農林水産祭」において、見事、天皇杯に輝いた。

商品開発においてもその視点が冴える。「蒲鉾」の中高年向けの贈答品」という印象は、そのまま開発者の属性を映したものではないか、との考え方から開発チームを20代から40代の男女という幅広い属性の社員で構成。アプローチ手法も、従来の「この商品をいかに売るか」ではなく「このターゲット層に向けて売る商品を作る」というマーケットイン的スタイルへシフトした。こうして誕生したのが、「カキをおいしく食べるための蒲鉾」という、主従を逆転させた商品「御膳蒲鉾かき」。その品質と着眼点が評価され、農水省主催の「農林水産祭」において、見事、天皇杯に輝いた。

商品開発においてもその視点が冴える。「蒲鉾」の中高年向けの贈答品」という印象は、そのまま開発者の属性を映したものではないか、との考え方から開発チームを20代から40代の男女という幅広い属性の社員で構成。アプローチ手法も、従来の「この商品をいかに売るか」ではなく「このターゲット層に向けて売る商品を作る」というマーケットイン的スタイルへシフトした。こうして誕生したのが、「カキをおいしく食べるための蒲鉾」という、主従を逆転させた商品「御膳蒲鉾かき」。その品質と着眼点が評価され、農水省主催の「農林水産祭」において、見事、天皇杯に輝いた。